

平成 30 年度第 2 回地域福祉推進委員会会議録

日 時	平成 31 年 3 月 26 日(火)午後 10 時～12 時
場 所	宇治市役所 8 階大会議室
参加者	<p>委 員 : 加藤委員長、岡野委員、島崎委員、羽野委員、松本委員、迫委員 伊藤委員、高橋委員、曾谷委員、小山委員、河淵委員、谷崎委員 原委員、原田委員、榊村委員、森委員、山本委員</p> <p>(欠席委員: 奥西委員、藤本委員、栢木委員、伊勢村委員、藤田(明)委員、 宮崎委員、小松委員、藤田(佳)委員)</p> <p>事務局 : 星川福祉子ども部長、澤田福祉子ども部副部長兼地域福祉課長、 木田地域援護係長、加島主任、福井主任</p> <p>傍聴者 : なし</p>
委員	<p>会議次第</p> <p>[1] 開会</p> <p>[2] きょうと地域福祉活動実践交流会の報告</p> <p>[3] グループワーク『担い手の確保について』</p> <p style="padding-left: 20px;">①主旨及び資料説明</p> <p style="padding-left: 20px;">②グループワーク</p> <p>[4] その他</p> <p>◆次第 2 きょうと地域福祉活動実践交流会の報告</p> <p>「第 7 回 きょうと地域福祉活動実践交流会」につきまして報告させていただきます。</p> <p>資料をご覧いただいたとおり、今回開催は亀岡でさせていただきました。</p> <p>交流会の真意は京都府内で、ブロックごとに開催しているもので、今回は南丹ブロックということで、亀岡市、南丹市、京丹波町の 3 つの社会福祉協議会を中心に主催させていただきました。</p> <p>開催日が 2 月 16 日で会場はギャラリーかめおかという大変大きな生涯学習施設でして、その会場の中のホールと会議室を使って交流会が行われました。</p> <p>全体では、ちょうど時期的に、来年大河ドラマがあるということで、武者のいでたちで出演されて非常に賑やかな印象を受けました。</p> <p>まず基調講演ということで、華頂短期大学の名賀先生からお話をいただきました。「地域づくりはみんなの力で」ということでした。</p> <p>それぞれの地域でのニーズを見据えて、みな全体で関わっていくことが大事で、そこにみんなの想いを実現していくためには、いま何が不足しているのかというニーズを見ながら、活動していくことが大事であるというお話をいただきました。</p> <p>(資料 3 の) 3 ページに、名賀先生のプロフィールが書いてありますが、これまで大阪ボランティア協会での活動をはじめ、ボランティアの振興に努められてきました。特に学生のボランティアの振興に努められたということで、事例としては美山町でワークキャンプをされておりました。そのあたりの事例を含めて、報告をされました。美山町は人口が本当に少ないところです。そこに学生を連れて、その中</p>

でのワークキャンプを通じて、地域住民のみなさんと学生との交流の場を継続して作られており、それを通じて地域をどう見つめて、若者の目から見た地域、そしてこれから先どうしていくのかということをお話していただきました。

その後、活動交流では、府内の各地域から自分たちの活動をポスターセッションという形でパネルに掲示して、その前で説明するというスタイルで行われました。

30 近くのブースが設けられていましたが、参加者がかなり多く、本当に会場が熱気であふれんばかりでした。それぞれ熱心に自分たちの活動を掲げ、交流されていたと思います。

中でも印象的だったのが、中学生が自分たちの学校での福祉教育について、しっかりと報告されていました。中学生くらいからああいう場で発表するというのは非常に、将来が頼もしいと思いました。

そのほかは、それぞれの地域で取り組まれているサロン活動や交流活動についての報告でしたが、それぞれ似通って悩みの交換もされていたと思います。

その後は、その話を受けて、名賀先生からお話をいただきました。

世代を超えてのつながりということで、大学生のワークキャンプを通じながら、若者から地域おこしについて、名賀先生ならではのお話をいただきました。

宇治市社会福祉協議会からも参加させていただきまして、他の地域のみなさんと交流を深められたかなと思います。

これまで参加された方と久しぶりにお会いできたというパターンもありましたので、交流を図れたと思います。

きょうと地域福祉活動実践交流会につきましては、来年は丹後のエリアで開催をし、その次は、宇城久エリアで開催する予定ということになっています。

ですから、みなさんも、ぜひとも来年、再来年には、宇治で開催しますので、いろいろな形でご協力いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

◆次第3 グループワーク『担い手の確保について』

①主旨及び資料説明

委員長

それでは、今のお話の中にも、後ほど（グループワークで）話し合ってください。ネタがあったように思いますが、本日はグループワークという思い切ったことが企画されております。

グループワーク「担い手の確保」につきまして、事務局から、主旨と配付資料の説明をお願いいたします。

事務局

（資料に基づき説明）

これまで、地域福祉推進委員会を行ってきた中で、委員のみなさまから計画の全体に関わる進捗状況について、市の施策、外部団体の資料について、ご意見、ご提言を数多くいただいていたところですが、ここ近年の地域福祉推進委員会の中で、必ずといっていいほどご意見をいただく内容がいくつかあったかと思っております。

その大きなもののひとつとして、自治会、町内会の問題です。会員数が減っているのではないかと、組織率が落ちてきているのではないかとのご提言をいただいております。

もうひとつが、自治会等に限らず、地域にある活動団体、当事者団体などの各種団体の会員数についても減少に歯止めがかからないというご意見も毎回のように

いただいております。

そういった課題は、地域福祉を推進していく上でも、避けては通れない中心的な課題となっておりますので、今回は、そういうご発言をいただく委員の方だけでなく、委員のみなさまのご意見を出し合っていただくために、共通したテーマである「担い手の確保」をテーマにして、グループワークの形式で委員のみなさまに意見交換をしていただきたいと思います。

今回のテーマは「担い手の確保」ということで、広いテーマではありますが、コミュニティの参加者の減少、役員のなり手不足。こういったことの問題の原因はどういうことなのか。また、コミュニティの今後のあるべき姿はどういうものか。これまでどおりでよいのか、もしくは変わっていく必要があるのか。そのあるべき姿に向けて、自分たちができることは何か、すべきことは何だろう。

また、これだけでなく、やりたいことはどういったことがあるのか。やりたいけれどもできないこともいくつかあると思います。そういったものは、行政を巻き込んでということになるかと思えます。そういった意味で、行政に求めることはどういったことがあるのか。そういったことについてご議論いただければと考えております。

このテーマにつきましては、簡単にももちろん結論や答えが出ることではないものですし、我々事務局といたしましても、こちらの方向にという、着地点を見据えたものでもありませんので、委員の皆様にも、それぞれご自由にご意見を出し合ってくださいまして、ご自身とは違った意見があることをご理解いただいた上で、委員のみなさまにおかれましては、参考になるものがあれば持ち帰っていただければと思います。我々事務局といたしましても、出された意見につきましては、今後の施策ということで参考にさせていただきたいと思えます。第3期宇治市地域福祉計画、平成34年、2022年からになるのですが、次の計画の策定においても、重要なお意見として参考にさせていただきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

委員長

それでは、私から少しだけ、資料7に則して触れさせてもらいたいと思えます。

お集まりになっている方は、宇治市の地域福祉のトップリーダーの方ばかりですが、こういうグループワークをするというのは、私はいろいろな会議に出ておりますが、本当にめずらしいのです。

お話上手な方ばかりですが、引き出し上手、聞き上手にも、本日はなっただけだったと思えます。

資料7の(1)に、「町内会役員サポーター」と書いております。高齢になりましたら迷惑がかかるので、役員をパスされる方が多いです。そういう方が抜けてしまわれると、ますます疎外されてしまいます。一緒にサポーターの形でやれるような仕組みを推奨したらどうかというアイデアです。

それから(2)で「団塊の世代」についてです。先ほど委員からも「団塊の世代は自分のことばかり考えがちだ。」というご意見がありました。

という私も団塊の世代ですが、得意なことやキャリアを活かすこと、例えば、公民館などで「私はタクシーの運転手をしています。」とか、「私は銀行に勤めていました。」などという話を中学生達にするということ、確か膳所のあたりで取り組んでいます。地域にこういう方が住んでいらっしゃるということを知ることは、子どもたちに随分大きな影響を与えます。

自分のことしか考えていない団塊の世代に頼み込む方法で、道をつけていく、水路をつけていくように。

それから、若者に障害者団体などの機関紙の編集や発信手段のお手伝いを頼むなどの方法もよいと思います。

(3)に「企業の人材育成」を掲げました。

職場と家庭と地域のバランス、「ライフ・ワークバランス」といいますが、どうしても地域との関わりが勤め人には難しいということが言えます。

年に12時間程度、月に1時間程度であれば、地域と関わることができるのではないかと。こういうことを社員に推奨し、ポイント制にして、賞与に反映するなどということを書きました。

これはなかなかできることではないですが、「宇治市役所から率先垂範する」、ということを書きました。これができれば全国発信できる、全国アピールできるのではないかと思います。新入社員の研修については、ワタキューさんが随分組織的にされています。

(4)は、「ひと言声掛け訪問」です。

これは、地域で実践されている方が多いと思いますが。停電や台風があった場合、その日のうちに「大丈夫でしたか。」と声を掛けると、ものすごく心強いです。そのためには、日頃から、「即、動ける体制」を作っておくことも担い手づくりに重要なことだと思います。

(5)は、「孤立死を無くす」ということです。

向島では、二ノ丸学区だけですが、「我が家の避難計画」というのを作って、これを地域包括支援センターに預けています。緊急連絡先がすぐに分かります。地域の方が、「隣のお家の新聞、配達が溜まっている。」、「水道メーターが動いていない。」などということを見つけたときに、警察、交番に連絡します。警察、交番からすぐに地域包括支援センターに連絡して、地域包括支援センターが対象の方の緊急連絡先に連絡して、すぐにドアを開けるということをやっております。

消防や警察はものすごい情報を握っているのですが、それが活かされていない。伏見消防署が地域包括支援センターとの会議を続けています。このことも重要でしょう。

(6)は「空き屋の活用」についてです。

宇治東福祉会や、山城福祉会が、グループホームを府営や市営の公営住宅で作っています。

学生に低家賃で入居してもらい、その代わりに、一定時間、公営住宅の高齢者を訪問してもらおうというものです。これは目的外使用になるのですが、思い切ってやっていく必要があると思います。

(7)は、「福祉施設・企業の地域活動貢献に係るメリット提示」です。

財政が限られている中で、企業が地域にいろいろと関わる、奉仕する。そのためには、企業にとってどんなメリットがあるのかを「見える化」する必要があります。回覧板に広告を入れるとか、いろいろあると思います。こういったことも企業からアイデアを貰うということが重要です。

それから(8)は、「働く人が参加しやすい地域活動メニュー」です。通勤途上でできるようなことです。人と深く関わりたくない人が増えております。そういう人たちもSNSを使った地域貢献ができるメニューを開発する。その人と関わりたくない人にヒアリングをすることで、いろいろな助言が貰えると思います。

それから(9)の「学校教育と地域づくりの協働戦略化」です。

先ほど委員の報告の中で中学生の話を書きました。

阪南市で「中学生福祉委員制度」を手あげ方式で作りました。民生委員や福祉委

	<p>員と一緒に高齢者支援をやっています。非常に評判がよいです。</p> <p>先だって、八幡市でこの話をしましたら、早速八幡市が阪南市に見学に行って、取り入れる計画をしています。</p> <p>それから京都文教大学が洛タイ新報と一緒にあって、小学生に記者になってもらって、福祉ニュースを載せたりしています。</p> <p>こういうものは、家族に大きな影響を与えます。そして子どもたちに地域に対する愛情、「地域愛」が育まれますので、非常に重要ではないかと思えます。</p> <p>また、(11)の「障害のある人の『近隣デビュー』」についてです。</p> <p>障害のある人が、なかなか地域の近隣デビューができていない。福祉施設と自宅との往復が多いです。地域の方とお茶を飲むとか、福祉施設と自治会と一緒にあって取り組むということも大事だと思います。</p> <p>5年くらい前にできた「第3次宇治市地域福祉活動計画」でも、「担い手づくり」ということが課題に挙がっております。</p> <p>5年前から、やはり地域の紐帯がどんどん解体していつている。そして、担い手を必要としている状況が広がっているということです。</p> <p>ぜひとも、みなさんからお知恵をいただければと思います。</p>
	<p style="text-align: center;">②グループワーク</p> <p>委員長 それでは、早速ではございますが、話し合いをよろしくおねがいしたいと思います。</p> <p style="text-align: center;">◆40分程度、A、B、Cの各グループで話し合い</p> <p style="text-align: center;">◆その後、B、C、Aグループの順に、話し合ったことについて発表していただいた。</p>
委員長	<p>では、Bグループから5分程度で発表をお願いいたします。</p>
委員	<p>(Bグループには)喜老会や学区福祉委員会、障害者の団体、ボランティア活動センターなど、いろいろな団体の方がおられます。共に地域で生きているので、町内会に入っている者で話をしました。</p> <p>どこも後継者、担い手が減っている、人数も全体的に減っているという状況は同じでしたが、一生懸命活動している人の中身がきっちりと伝わっていないので、その中身を分からずに入ってきて来れないのではないかと、ということでした。学区福祉委員会では、後継者ということあまり考えずにまめに研修会等に参加してもらっていたら、声をかけることができたということでした。内容を伝えていくことを維持していくことが大事ではないだろうかということでした。</p> <p>障害者団体では、当事者団体ということで、お誘いをしたいと思っても、個人情報に壁になって、必要とされているだろうという方に声が届かない状況があるので、「そういう団体があるよ。」ということ伝えていく仕組みが必要ではないか、ということでした。</p> <p>全体的に言えることは、「仕事を退職したら、地域に」というところを目指してきていたけれども、実際に定年の年齢が上がっていつて、働き続けなければならぬという人が増えているので、「仕事を退職したら地域に」ということを言ってい</p>

	<p>くのは難しいのではないかと。障害のある方に関しても同じで、障害があってもずっと働き続けることを模索されている方が増えてきているということでした。</p> <p>また、こうしなければならない、というような上から押さえていくようなリーダーではもうだめではないかということで、みんなで考えていくという時代になってきているのではないかとということです。</p> <p>私自身のことでいいますと、「町内会長を5年間します。」と宣言してしまったわけですが、(町内会の)仕事を減らして、最低限度残していかなければならないものを模索して行って、これからの世の中に合わせて、みんなで必要なものの形にしていくという精査も必要ではないか。いろいろな方面を取り上げながら、後継者を作っていくことをしていきたいということでした。</p> <p>以上でよろしいでしょうか。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>非常に要点を踏まえて発表していただきました。</p> <p>では、次にCグループの発表をお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>このグループにもさまざまな団体の方がおられたわけですが、みなさんも聞こえていたかもしれませんが、まず初めに、「君たちの世代が考えて動かなければだめだ。」ということをお叱り激励いただいたわけです。</p> <p>「どんな時代でもPDCAのサイクルは必要で、長年培って、継続して繋いでいくということが大事なんだよ。」ということをおっしゃえながら、活動をしていかなければならないのですが、どこかの世代でそれが途切れてしまっているの、それをまた動かしていかなければならないと思います。</p> <p>キーワードとして挙がっていたのは、「やりがい」、「後継者を繋ぐ」ということでした。</p> <p>「やりがい」というものがあれば、やはり人は動くということもおっしゃっていた方がおられました。私たちの世代としても、そういうやりがいやメリットがあれば、いろいろな動きをとっていける世代であると思います。</p> <p>あと、行政への意向も出ていたのですが、僕たちはちょうど40前後の世代です。同世代の人間が、木幡や小倉でも色々活動を始めて動き出しています。ただ、それぞれが動いている形で、もっとそれが繋がっていけば、宇治市全体としての地域力になると思います。ただ、それを一市民が担うのはなかなか難しいので、行政としてそういうコーディネートする役割の人間をつくっていただけたらいいなあ、というのが私の意見のひとつです。</p> <p>商工会議所の方がおっしゃっていたのは、そのためには予算も要る。市税も上げなければならない。経費も抑えていく。」ということをお行政にお願いしたい、ということでした。この2点が挙がっていました。</p> <p>私たちの世代が、もうひとつ下の世代に伝えていかなければならないということ、担い手不足については、いい意味での世襲、親から子へ繋いでいくという流れはこれからも続けていかなければならないと思います。最後に僕の意見を言わせていただきました。</p> <p>それから、地域活動をしようと思うと、例えば私も有給休暇をとって、ここに来て活動するわけです。自分の法人のことをいっているわけではないですが、職場から、「もっとの会社のための動きをしてほしい。」ということをおっしゃって</p>

	<p>ることがあると思います。</p> <p>先ほど委員長もおっしゃっていましたように、「働き方改革」というキーワードも出てくるので、年12時間地域活動を行うということでもよいと思いますが、「地域活動をするのが企業人としての務めですよ。」ということ、ここにいらっしゃる方であれば、その仕組みづくりも担える方が多くいらっしゃると思いますので、ぜひ、その仕組みや風土を作っていただくと、私たちの世代は外に出て活動しやすいというか、ちょっとごめんなさい。みなさんのお力を借りて、仕組みを借りてしてしまうところなのですが、活動しやすいかなと思います。そういう意味で、仕組みや風土を作っていただけたらという思いがあります。</p> <p>あまり取りまとめができず、個人的な意見が多くなりましたが、Cグループの発表とさせていただきます。以上です。ありがとうございました。</p>
委員長	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>では、Aグループお願いします。</p>
委員	<p>私たちもいろいろと意見が出ました。この会に出席させていただいて、初めてのグループワークだと思います。</p> <p>なかなかいつもの会議では話ができないのですが、今日はたくさん話をすることができました。</p> <p>この後も場所を居酒屋に変えて、朝までいけるのではないかというくらいの、議論の盛り上がりを見せておりました。</p> <p>いろいろと意見はでましたが、担い手ということで、私たちが担い手になっていくのであれば、私たちにバリューがあるかということです。地域活動に参加する魅力があるかということです。</p> <p>魅力を作っていないとなかなか参加していかないと思います。</p> <p>「担い手がいないからやってくれ。」ではなく、子育ての時代に、おじいちゃんおばあちゃんが周りで見守ってくれて話するようになって、いろいろと交流することで、地元愛や町内愛が生まれると思います。そういった活動をしていかなければならないと思います。</p> <p>私は今住んでいるところには、15年くらい前に引っ越してきました。最初は向こう三軒両隣も知りませんでしたので、ちょっと旅行の後にお土産をもっていったりすると、果物を貰ったり。そういったところで、町内愛というよりも、近所の人愛ができてきます。私の住んでいるところも、町内活動といえば地蔵盆くらいで、体振もないです。イベント、もしくは予算をつけていただいて、若手が集まれるようなイベントをさせていただけるのであれば、したい人も中にはおられると思います。というのも、学校のお母さんのPTAやPTCの活動であれば、ノルマとしてではありますが、やらないといけない状況が作られますので、お母さんたちの力は、子どもが卒業した後も地域に向けることができれば、活動として継続できて、いい活動ができるのではないかと思います。</p> <p>どうしても町内活動を知らない人で、文句だけという人はたくさんいます。そういう人たちを周りの人がサポートする必要だろうという話になりました。</p> <p>町内会だけでは、認知症の方などの老老介護や、認知介護が増えています。そういう方たちをサポートするために、委員長もおっしゃっていましたが、空き屋を福祉施設が借り上げて、従業員に無償か安価で貸して、料金の安い分を、町内会活動に参加するというような仕組みづくりが必要ではないかという意見が出ました。</p>

<p>委員長</p>	<p>他にもまだまだたくさん意見が出ていましたが、（Aグループの人に対して）補足などはありますか。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>おそらく、言い尽くせなかったこともあると思います。この付箋にメモしてあることは写真に残しておくということでした。</p> <p>Bグループからは「中身を伝えていく」ということがありました。</p> <p>Cグループからは「やりがい」「仕掛け人」というのが地域に参加できる仕掛けづくりについて話がありました。</p> <p>Aグループからは「バリューを作り出す、届ける」という話が出ていました。Aグループでは、後継者づくりには「一本釣りが有効」という話も出ていました。</p> <p>3グループで共通なことは、地域活動が人を作っていくということで、非常に意味があるものだという事です。単に、何かに貢献するというだけでなく、自分自身を育てていく、成熟させていくということでは、地域に関わっていくということは非常に価値があるということを見える形で伝えていけること、それは人と人が一本釣りといいますか、口コミで伝えるものかもしれません。そういう情熱みたいなものが、地域の本当の意味での底力になっていくのかもしれない。地域活動をなさっているみなさんだからこそその意見だろうと思いました。</p> <p>こういうことをやって、私は大丈夫だろうかと、最初は事務局に申し上げたのですが、やってみてよかったという思いでございます。少しまとめてみなさんにフィードバックさせていただけたらと思います。新たなプランニングにも反映していきたいということです。</p> <p>ご協力いただいたことを感謝申し上げます。</p>
<p>委員</p>	<p>ちょっとよろしいですか。</p> <p>今日2人の人が私と話をしました。この人達は施設の人です。</p> <p>この人たちは少なくとも社会的なことについて十分に知識を持ちながらも自分のところの仕事がいっぱい、もっと社会に出たいが、出れないという葛藤をしながら、やっておられます。ここに来たときに、この人の歳を聞いたんです。40歳だということでした。僕の40歳のときはどうだったか。</p> <p>街も成熟してしまっています。いかに年寄りがかまうかという時代になっています。</p> <p>宇治市内にも20以上の社会福祉法人があります。それプラス医療も含めて、そういうところの若い人が中心になってもらって。</p> <p>働き方改革で残業もしてはいけないようになってるんだから。社会活動をしたら、（報酬等で）何か少しでも貰えるようにしたらいいのではないか。そこに集まってもらっていかないと学区福祉委員会やボランティア活動センター、民生児童委員のなり手はあるわけがありません。一般企業で給料を払っていてもなり手がない時代なのに、あるわけがないと思います。</p> <p>その辺りのことを、もう少し（行政を指して）この辺の人が知っていないといけないと思います。</p> <p>ここにも自分の仕事を持っているメンバーがたくさんおられます。その人たちが地域のことをすると、「うちの孫も世話になるから手伝わないといけない。」とか、「先生がされているから手伝わないと。」とか、そういう者が一緒になってやらないといけないということを、社会福祉協議会のメンバーにはいっておきました。京</p>

<p>委員長</p>	<p>都府がそれをやるということを言っているのですが。施設等をうまく利用して、地域をうまく固めていって、お金ではなく、行政的にうまくコーディネートする形をつくらないといけないと思います。</p> <p>私たちではなく、若い人たちがやらなければならないのです。</p> <p>私の意見は、この委員会は止めればよいと思います。構造的に変えないと。お金がないのだから。地域にある資源をどう使うのか。</p> <p>この人達は頭がいいのだから活かさないと、と思いました。</p> <p>ありがとうございました。具体的なお提案をいただきました。また、参考にしていってほしいと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>◆次第4 その他</p> <p>本日は、みなさまにいろいろなご負担をかけましたけれども、内容のある委員会になったのではないかと思います。</p> <p>それでは、これをもちまして、第2回宇治市地域福祉推進委員会を終わりたいと思います。ありがとうございました。</p> <p>(終了)</p>